

太田川ダム濁水対策検討会（第9回）

議事要旨

日時：令和5年3月20日（月）

13：30～15：30

場所：森町役場町民生活センター2階
集会室）

1 出席者

委員13名

2 連絡事項

- ・本検討会から、7名の委員が人事異動などに伴い交替。
- ・国土技術政策総合研究所河川研究部 川崎委員は個別Webにより出席。
- ・静岡県交通基盤部河川砂防局局長 望月委員の代理で河川企画課長 山田委員が出席。

3 議事

- (1) 太田川ダム濁水対策検討会規約の一部改正
- (2) 令和4年の流況及び水質と対策の実施状況
- (3) 今後の方針・対応

4 検討会結果

- ・濁水対策の実施状況及び効果検証結果、貯水池内や下流河川等のモニタリング結果を踏まえ、今後の予定として以下を報告し、意見を伺った。

- (1) 躍層低下放流と早期濁水放流の実施（継続）
- (2) 早期濁水放流の運用改善（継続）
- (3) 上流域の濁水対策（継続）
- (4) 貯砂ダムの影響把握（継続）
- (5) ダム直下 減勢工内の濁度計の移設（継続）
- (6) 下流河川環境調査（継続）
- (7) 瀬淵創出箇所のモニタリング（継続）
- (8) 清澄水を放流する期間を増やす新たな対策の検討
- (9) 選択取水施設の遠隔操作化
- (10) 河川利用者への濁度情報等の公開方法の検討

5 委員からの主な意見

- 流入濁質を少しでも抑制させるため、当初計画の見直しも含め、貯砂ダムにおいて浚渫量を増やして堆砂容量を確保されたい。
- 太田川ダムの濁水長期化の要因として、上流域からの細かい土粒子の流入であれば、

当初計画の見直しも含めて抜本的な対策を検討されたい。

- 上流域の土砂は細かい成分であることはダム建設前から把握されていたことから、濁水源をいかに抑えていくかが重要である。
- 台風15号に伴い濁水が長期化しているが、稚魚の放流などの予定もあることから放流濁度の回復について今後の見込みを共有されたい。
- 降雨時に放流量を増加させることで、貯水位を早めに常時満水位より低下させることができる。また、支川杉沢からの濁りも大きく、濁水バイパスや放流量増加など施設改修を含めて抜本的な対策を検討されたい。
- 上流からの流入量が少ないため回転率が小さいことが太田川ダムの特徴である。施設改修にはいくつかのメニューがあり、選択取水、濁水バイパス、放流管の増設等が考えられる。現状では選択取水設備放流量が小さく事前放流が出来ないため、大きな洪水が予想される場合には放流管から放流して貯水容量を確保しておく必要がある。治水・濁水の両面から太田川ダムに適切な対策を、今後できるだけ早く検討されたい。
- 青天森橋、不動沢橋、杉沢の濁度が異なるのは雨の降り方にも依存している可能性がある。濁水の対策検討についてシミュレーションを使いながら進めていくことになると思われるが、その際には流入河川の濁りの消長メカニズムの解明も含めて検討されたい。
- 濁水発生の根本要因は上流域にある。今の対策は対処療法であり、予防保全にするべきである。森林管理と併せて濁りの原因を調査し対策されたい。
- 今後は上流域の対策と施設改修の2点が主要な対策になる。上流域の森林整備については、交通基盤部だけではなく県を挙げて対策に取り組まれたい。
- 森林からの表土の流出は、流木の流出と関係していると思われる。富士山で間伐材や流木を束ねて林内に設置し水の勢いを弱められる制水工の事例もあるので参考にされたい。
- 青天森橋の濁度に比べて不動沢橋が上昇していることから、2地点間でかなり濁りが高くなる要因があると思われるため、何らかの対策を検討されたい。
- 水道供給の観点から、企業局としては放流濁度の情報公開を早急に実施されたい。

以上